

萩市企業景況調査

DI方式

平成21年10月～12月期 実績
平成22年 1月～ 3月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス) 方式とは?

DIは各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向(「良い」)の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向(「悪い」)の回答割合が多いことを示す。
◎DI= (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)
※設備投資は割合(%)

《調査機関》萩商工会議所

景況の概要

業況、業種間でバラツキ。

—節約志向、デフレ傾向鮮明に。先行き不透明—

平成22年1月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率95%)

生産・売上 長引く景気悪化などが年末需要に影響。前期比DIは業種間でバラツキが見られ、全業種平均で0.0ポイントとなったものの、前年同期比は全ての業種が大きく減少(全業種平均 ▲54.4ポイント)。今後(1～3月期)の見通しも、閑散期や先行き不透明感などから建設業(+20.0ポイント)を除き減少(全業種平均▲47.4ポイント)するとの厳しい予想となっている。

収益 収益(経常利益)も前期比DIは業種間でバラツキが見られ、総じて厳しい状況が続いている。消費者の節約志向などによる需要停滞に加え、同業他社との価格競争、値引き要請などが利益の下押し要因となり、採算悪化となっている。

資金繰り 売上・収益の不振により、ほぼ全業種で悪化。見通しも含め厳しさが続いている。

従業員数 製造業や卸売・観光関連業で人員過剰と回答。不況の影響で、雇用に過剰感がみられる。

経営上の問題点 ①需要の停滞66.7% ②同業他社との競争激化11.1% ③大型店等との競争激化が5.6%の順となっているほか、人件費等経費の増加、値引き要請等取引条件の悪化、後継者問題、事業資金の借入難などが挙がっている。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、先行き不透明感などから全ての業種が悪化(平均▲64.3ポイント)する予想。特に小売業、卸売業などの悪化が目立っている。

景況に関する生の声 ■製造業 魚価のデフレが始まっている。先が見えません(海産物加工)。萩市の工事で価格が異常に下げられています(製材)。県内需要が停滞(海産物加工)。不景気で見通しが悪い(印刷)。■卸売業 例年と比べ、市場での商品のダブツキが多く商品価値の上昇が見られない(海産物)。対前年同月比で近年にない売上高の減少となった。来期も厳しいと予想(ポン酢)。■小売業 一品単価、客単価の減少(大型店)。一品の単価下落は止まらず、買上げ点数も減少傾向(大型店)。■サービス業 毎年、同じ内容の仕事に相見積りを取られ、金額が下がる一方(タクシー・バス)。■観光関連業 首都圏への販路拡大中(工房)。

項目	業種	業種						平均	前年平均	前々年平均
		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業			
生産・売上	前期比	0.0	44.4	▲40.0	▲10.0	▲12.5	20.0	0.0	6.8	11.9
	前年同期比	▲10.0	▲33.3	▲90.0	▲50.0	▲62.5	▲80.0	▲54.4	▲52.5	▲30.5
	22年1月～3月期見通し	20.0	▲55.6	▲60.0	▲70.0	▲50.0	▲70.0	▲47.4	▲64.4	▲61.0
収益	前期比	10.0	33.3	▲40.0	▲40.0	▲12.5	10.0	▲7.0	▲16.9	▲6.8
	前年同期比	▲20.0	▲33.3	▲70.0	▲40.0	▲25.0	▲70.0	▲43.9	▲52.5	▲35.6
	22年1月～3月期見通し	0.0	▲44.4	▲60.0	▲80.0	▲37.5	▲70.0	▲49.1	▲66.1	▲61.0
資金繰り	前期比	▲10.0	▲22.2	▲10.0	▲10.0	0.0	▲80.0	▲22.8	▲32.8	▲22.0
	22年1月～3月期見通し	▲10.0	▲33.3	▲20.0	▲40.0	▲12.5	▲80.0	▲33.3	▲43.9	▲37.3
従業員数(21年12月末)		10.0	▲37.5	▲30.0	0.0	0.0	▲30.0	▲14.3	▲20.3	3.4
設備投資	(実績)	20.0	11.1	0.0	0.0	25.0	10.0	10.5	10.2	22.0
	(計画)	20.0	11.1	0.0	20.0	12.5	0.0	10.5	13.8	13.8
業界動向		▲40.0	▲37.5	▲80.0	▲100.0	▲62.5	▲60.0	▲64.3	▲86.4	▲86.4